

うれしいお手紙

春休み中に、とても嬉しいお手紙をいただきました。市内のご婦人の方からですが、紹介します。

…はじめまして。突然のお手紙で失礼をお許し下さいませ。先日遺愛高校のバレー部員の方に助けていただきまして、お礼をさせていただきたいと思い、筆をとらせていただきました。私がバスで沢山の荷物を持って乗っておりますと、先に乗っておられた遺愛生が、「重たくないですか？どうぞ」と言って、席を譲って下さったのです。この日はバス停まで急いで走っていたこともあってとてもくたびれていたのですが、彼女のお蔭でとても幸せな気持ちになれたのです！！少しお話しさせていただいたなかで、遺愛高校のバレー部員であると伺いまして、まことにささやかでございますが、バレー部の皆様でめしあがっていただきたく、お菓子を送らせていただきます。本来でしたら彼女に直接お礼を申し上げるべきところ、学校とお名前しか存じ上げませんので、失礼かとは思いましたが、学校へ送らせていただきました。私は以前にも遺愛生に助けていただいたことがございます。本当に素晴らしい教育をなさっているのだと感心いたします。

どうぞ、そのバレー部員の方に「本当にありがとうございました」とくれぐれも宜しくお伝えくださいませ。誠にありがとうございました。

…石川町に住むご婦人からの手紙でした。

とても嬉しいお手紙でした。私は二重の意味で嬉しく感じました。1つには、バレー部の生徒が、荷物をもってしんどそうにしている女の方に勇気をもって声をかけ、席を譲ってあげたことです。気持ちがあっても行動に移すことがなかなかできないものです。それを「重たくないですか？」と言葉をそえて、譲ったというところがすごい。私なら席を譲っても「どうぞ」というくらいですが、「重たくないですか？」という相手を思いやる言葉を自然と発したところが本当に素晴らしいと思います。

2つ目の嬉しさは、席を譲られた方が、その場の感謝だけでなく、わざわざお手紙をよこしてくれたことです。感謝の気持ちを、手紙とお菓子にこめて、改めて示して下さることにより、席を譲った遺愛生だけでなく、私たち遺愛に関わる者にも喜びと新たな勇気をもたらしてくれました。

生きるとは、誰かに何かを「する」と「してもらう」ことの他に、「ありがとう」という感謝があり、この第三の立場を加えることで、わたしたちの命はお互いにより充実してくると青山学院の名誉教授で倫理学者の小原信先生が言うておられます。



2012年4月12日(木)